

## 大阪ハイエンドオーディオショウ 2016 報告(2016.11.11)

大阪ハイエンドオーディオショウ 2016 は 11 月 11 日から 13 日まで心齋橋ハートンホテルで、オーディオセッション in Osaka 2016 は 11 月 12 日から 13 日まで南船場ハートンホテルで開催されました。大阪ハイエンドオーディオショウには 11 月 11 日に、オーディオセッションには 11 月 13 日に行ってきました。以下は大阪ハイエンドオーディオショウの報告です。

<https://www.facebook.com/ohas.info/>

<https://www.facebook.com/events/1825458667686355/>



各メーカー、ディーラーの展示およびイベントの内容を下記に添付します。

### [大阪ハイエンドオーディオショウ 2016 展示イベント](#)

駆け足でそれぞれのデモを聴いて回りましたが、クラシックをかけているところが少なく、機器の性能を十分に把握できるものが多くはありませんでした。

その中で、Harbeth の HL7 Compact Monitor はバロックを繊細で爽やかな音で鳴らしていましたし、また、キソアコースティックの HB-1 は、例年どおり、響きの良い音でした。そこで持参した神尾真由子の CD を両者でかけてもらいましたが、Harbeth の方は、演奏会で聴いて来た音に近く、弦の倍音がきれいに再現できていましたが、キソアコースティックの方はピアノの響きは豊かであるものの、弦の倍音の伸びに不満が残りました。



その他でクラシックが聴けたのは、Ortofon のアナログとアキュフェーズのデモでした。Ortofon がせつかくカートリッジの SPU #1E に、アキュフェーズは一連の新製品に期待がかけられていましたが、Ortofon の方はシュナイダーハンのベートーベン V 協を鳴らしているスピーカーが JBL、アキュフェーズの方はチャイコフスキーの P 協を鳴らしているスピーカーがモニターオーディオの P500 II で、クラシックの再生という点で mismatch の印象がぬぐえず、それぞれの新製品の真価を測りかねる結果となりました。



なお、写真はありますが、JBL は本国からのエンジニアの解説で、新製品の 4312SE のデモを行っていました。鳴らしている音楽からして、こういうコンセプトのスピーカーであるということが明確に分かり、万能型ではないという印象です。その内容は早速ネット上で報告されています。

<http://www.phileweb.com/news/audio/201611/11/18056.html>

また、プロ用の DSD 録音機器の Pyramix System を手掛けるマーキングの NADAC の最新バージョンとなる「NADAC Player」は聴くことができませんでした。

<http://www.phileweb.com/news/audio/201611/12/18062.html>

以下は、特に感想はなく、写真のみの提示となります。

写真左はマジコ M3、写真右は Vivid Audio のスピーカーです。



写真左は LINN の Klimax で駆動していた LINN の 5way のスピーカー、写真右はソナスファベールのカメレオンというスピーカーです。例年、ソナスファベールでクラシックをきちんと鳴らしているノアのデモではジャズをかけていました。



写真左は Wilson Audio のスピーカー、写真右は Triode の超弩級真空管アンプで駆動しているスペンドールのスピーカーです。



トルレンスのアナログプレイヤーです。



上記で報告していないハイエンド機器については下記記事も参考になります。

<http://www.phileweb.com/news/audio/201611/13/18063.html>

以上